

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] フィリピンにおけるサトウキビ耕種

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大屋, 一弘 (抄録) , Oya, Kazuhiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015220

フィリピンにおけるサトウキビ耕種

(Proc. of the Philippines Suger Technologist
11th Annual Conf., Manila, Aug., 1963: The In-
ternational Sugar Journal, Sept., 1965)

放射性同位元素：サトウキビの肥料養分利用，地下水の起源と土壤水の動向，サトウキビの砂糖合成などの研究における放射性同位元素の使用，更に害虫（特に土壤生息害虫）の追跡における放射性元素の使用が問題としてとりあげられている。

品種：現在栽培されている4つの品種の他に Phil. 54—60, B.43—63, B.37—172, F.140, H.49—5, N: Co.310, H.38—2915, Q.57, Phil.53—33 などが試験の結果フィリピンに適する品種として推せんされている。

肥料：尿素を使用する際に窒素の揮散が起きるが，これは施肥後1インチの覆土をすることによって防止することができた。酒造所から得られる廃物（かす，おり）を肥料あるいは豚飼料として利用すると効果がある。

バガス堆肥：土壤に有機物を供給するためにバガスの利用が考えられている。バガス堆肥はバカスとうまや肥を6インチと2インチの厚さに交互に積み上げ，同時に尿素その他のN肥料を腐熟促進剤として加えて熟成させる。

病気：わい化病，サトウキビモザイク病，フィジー病，黒穂病，ボカボン病，輪紋病，葉片赤斑病，虎斑病，根腐れ病，葉鞘赤腐病，べと病などがある。主要なものはモザイク病及びフィジー病であるが，その予防法として，無菌苗の使用，耐病性品種の栽培などを行なっている。根腐れ病はピチウムとネマトーダの害によるもので，これの耐病性品種は Phil.53—33, Phil.53—3, Phil.53—147, Phil.53—200などである。

害虫：メイチュウの天敵として Cuban fly（寄生蠅）を使用する試験が行なわれているが有効のようである。土壤害虫で主要なものはコガネムシ，（white grubs），シロアリ，コナカイガラムシなどである。駆除試験では Aldrin, Lindrex, Chlordane, Diazinon などの薬剤の中 Lindrex が最も有効である。

雑草：主要な雑草にはハマスケ，マルバツユクサ，ホシアサガオ，カッコウアザミ，ツノアイアシ，Centrosema などがある。C M U, T C A, 2.4—D, 2.4.5—T, “Simazine”, “Stam F34”, などの除草剤の中で C M U を雑草の発芽前に散布すると最も効果があった。

（抄録 大屋一弘）